

## かわさき区の宝物シート

宝物No.	いけがみゆきとよ <b>池上幸豊</b>		
32-3			
エリア	大師地区	シーズン	通年
	—	日時	
目的	<input type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input checked="" type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代的な文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物		



池上幸豊翁之碑（汐留稲荷）



池言坊(上)と四谷義田神社



所在地	川崎区池上新町2-24-21（汐留稲荷） 川崎区大師駅前2-1-2（池言坊） 川崎区四谷上町23-238（四谷義田稲荷）
問い合わせ	
TEL	
FAX	
E-mail	
URL	
交通	



### 基礎情報

■現在の池上新町と池上町は、江戸時代に海を埋め立て水田を干拓した池上太郎左衛門幸豊の姓を冠して「池上新田」と命名された場所である。

■享保3年(1718)に大師河原村に生まれ、12歳の時に亡くなった父幸定の跡を継ぎ大師河原村の名主となった幸豊は、算数や農業、天文など和漢の書に学び、国益にたった殖産興業を強く志すようになった。そしてかねてから幕府に願っていた新田開発の許可を得ると、宝暦6年(1756)に沿岸部の開拓に着手する。767両余りの費用と6年の歳月をかけて面積14町5反余(約143ha)の新田が開発され、宝暦12年(1762)池上新田村の誕生に至った。

■幸豊は新田開発以外にも、製塩や芒硝(医薬品の原料)、養魚、ニンジン栽培、ナシ・ブドウの果樹栽培、和製砂糖の製造と関東諸国への製法伝授の行脚など殖産興業に多大な貢献を果たし、また文人としても貴重な記録や随筆などを残した。まさに川崎の殖産、文化の先駆者となり、寛政10年(1798)2月、81歳の長寿を全うした。

### 由来・エピソード

■池上氏は藤原忠平の後胤とされ、元々は荏原郡千束郷(現・大田区千束)に住んでいた。初代の宗仲は日蓮上人に帰依して池上本門寺を建立、幸豊の曾祖父で「水鳥記」にも酒豪として登場する21代幸広は、池上家の土地約7万坪の他、日蓮上人ゆかりの品々を本門寺に寄進して、一族郎党を引き連れ大師河原に移住する。やがて多摩川河口に稲荷新田(現在の殿町・江川・田町など)の開拓に成功し名主となった。新田開発技術は幸広から幸忠、幸定、そして24代幸豊へと引き継がれた。

■延享3年(1746)幸豊は、代官所へ新田800町歩(約800ha)の臨海地一帯の開発願いを提出する。ところが規模が大きすぎたこともあり、許可はなかなか下りず、100町歩、40町歩と縮小を余儀なくされ、8年後の宝暦3年(1753)になりようやく15町歩の開発が認められた。幸豊は家伝書に基づき独特の海中新田開発工法を編み出していた。「笹出し」と呼ばれる方法で、干潮で風の強い時に海岸に何箇所も杭を打ち、周辺に笹を立てて砂が集まるようにする。出来た砂山を茅や葦を植えて固め、それを徐々に拡大するというものであった。

■幸豊の新田開発に参加した村民の多くは貧しい人々であり、新田開発はこうした村民のためのものとし、新田での収益は雑穀の貯蔵や村普請の資金、村民への貸付けなどにあてられた。このような田畑を「義田」といい、四谷上町にある義田稲荷神社はこれに由来している。

■池上新田完成の功績を認められた幸豊は、幕府の命を受け新田開発の可能な土地の巡視に赴くことになる。宝暦13年(1763)には現在の大師区から横浜市にかけての海辺を、翌14年(1764)には現在の保土ヶ谷区から八王子市にかけての山林原野を見てまわった。幕府は幸豊の新田開発に対する造詣の深さと卓越した計画力、指導力、技術力等に注目し「新田世話役」として重用したのである。その任を退くまでの10余年間、池上新田村の名主役を勤める一方で、幕府の新田開発政策の推進に大きく寄与した。

### 補足・その他

■汐留稲荷で祭神として祀られるとともに、功績を讃える「池上幸豊翁之碑」が建立されている。

■幸豊から6代目にあたる池上幸操は安政2年(1855)生まれ。明治12年(1879)に県会議員に当選して以降、生涯にわたり多摩川の治水事業に尽力した人物として知られる。

■大師駅前の池言坊は池上家代々の墓所で、崇祖の志が篤く常に清掃や細かな手入れが行き届き、幸広以来の一家一門の墓塔が数10基並んでいる。

### 関連シート

(10-2)池言坊  
(10-7)水鳥の祭  
(12-1)四谷義田稲荷神社  
(13-1)汐留稲荷  
(28-1)港湾施設(埋立地)